

「春いっぱい」の大学構内 (3)

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

4月の大学構内は、本当に美しい。芽吹いた新緑の色と、さまざまな花々の色で、何時間歩いても飽きない。3年生の理科は2時間続きで、90分の活動ができるのだが、いつも時間切れになってしまう。



「コデマリ (小手毬)」が満開だった。植え込みの花なので、本当は採ってはいけないのだろうが、5000房ぐらい咲いているので、「少しなら折っていいですよ。」と許してしまった。



女の子は、こういう花束を作るのが好きだ。自分のハンカチで大切に包んで、「先生見て見て」と、持ってきてくれた。「観察が終わったら、R-1のびんに飾るの」と言う。「R-1のびん」というのは、乳酸

菌飲料の、小さなペットボトルのことだ。5月に配る予定のプラナリアの飼育容器用に、学校に持ってくるように指示をしておいたものだ。



教室にもどって、こんなふうにはけていた。タンポポ、コデマリ、ムラサキツユクサ、ヨモギの葉、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、カラスノエンドウがさしてあった。どこにも売っていない生け花だ。



ノートの上も「春いっぱい」になった。観察カードを配ると、いっしょうけんめいに観察をしていた。本当は、フィールドに画板を持って行って、その場で観察させたい。しかし、慣れないうちは、こうして教室に持ち込んだ草花・昆虫を観察させている。子どもたちは「外で観察したい」と口ぐちに言っていた。